

園芸用殺菌剤

コサイド[®] 3000



有機農産物につかえる 銅殺菌剤！

- 野菜、果樹の幅広い病害に優れた予防効果。
- 汚れが少ないドライフロアブル剤。
- 量りやすく溶けやすい。
- 有機JAS法にも適合した銅殺菌剤。

栽培形態と使える農薬

	有機JAS規格
慣行栽培	<input type="radio"/> 使用可
特別栽培	<input type="radio"/> 使用回数にカウントされない
有機栽培	<input type="radio"/> 農作物の被害が予想される場合に使用可



最新の登録内容・
SDSはこちら

■果樹、野菜の幅広い病害に優れた予防効果を発揮する銅殺菌剤です。

■量りやすい、溶けやすい、サラサラとした新製剤。薬液調製の時間を短縮できます。

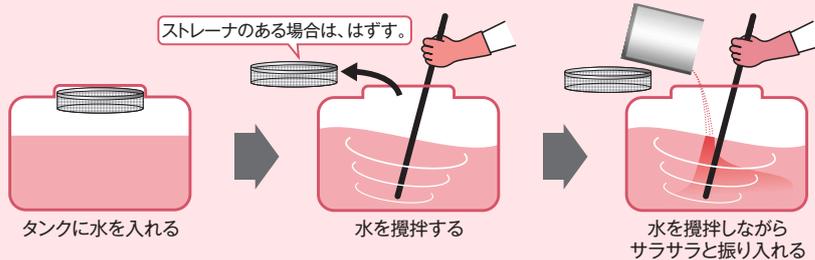
■作物への汚れが少ないドライフロアブル剤です。

■有機JAS法に適合。有機栽培や、特別栽培の病害防除にも使えます。

■上手な溶かし方

一回に大量にタンクへ投入せず、攪拌しながら徐々に投入し希釈してください。

薬剤投入口にストレーナのある散布機では、事前にストレーナをはずしてください。サラサラと振り入れていただくことで、比較的スムーズに溶けます。



■適用病害と使用方法

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	使用方法	農業の総使用回数*
ばれいしょ	そうか病	100倍	—	植付前	種いも 瞬間浸漬	—
	軟腐病					
トマト、ミニトマト	疫病	1000倍	100~ 300ℓ/10a	—	散布	—
だいこん	白さび病					
こんにゃく	葉枯病					
ほうれんそう	べと病、白斑病					
ブロッコリー	花蕾腐敗病					
てんさい	褐斑病					
あずき	褐斑細菌病					
いんげんまめ	かさ枯病					
だいず	斑点細菌病					
いちご	炭疽病、角斑細菌病					
にんじん	黒葉枯病	500~ 1000倍	200~ 700ℓ/10a	—	—	—
たまねぎ	りん片腐敗病	1000倍				
たまねぎ	軟腐病	1000~ 2000倍	2000倍	—	—	—
野菜類	軟腐病、黒腐病 斑点細菌病、褐斑細菌病					
アスパラガス	茎枯病、斑点病、褐斑病					
にんにく	春腐病					
やまのいも	葉渋病					
しょうようほおずき	斑点細菌病					
くわい	ひぶくれ病					
かぼちゃ	果実斑点細菌病					
ホップ	べと病					
茶	赤焼病、もち病、炭疽病 網もち病、褐色円星病 新梢枯死症(輪斑病菌による)	1000倍				
びわ、びわ(葉)	がんしゅ病	—				
かんきつ	かいよう病	2000倍	—	発芽前 生育期	—	—
	黒点病、褐色腐敗病					
ぶどう	べと病、さび病	2000倍	—	—	—	—
おうとう	褐色せん孔病					
もも、ネクタリン	せん孔細菌病	1000倍	200~ 700ℓ/10a	収穫後 収穫後から 落葉まで	—	—
	—	開花前まで				
りんご	斑点落葉病、すす点病 すす斑病、輪紋病、褐斑病	2000倍	2000倍	—	—	—
うめ	かいよう病	—				
キウイフルーツ	花腐細菌病	2000倍	—	休眠期~叢生期 (新梢長約10cm)	—	—
	かいよう病			収穫後~ 果実肥大期		
パパイヤ	軟腐病、黒腐病	1000倍	—	—	—	—
いちじく	疫病					

*本剤及び銅を含む農薬の総使用回数の制限を示します。

▲使用上の注意事項

- かんきつに使用する場合は次の事項に注意してください。
 - ①薬害が発生するおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用してください。特に、果実の着生時期の散布ではスターメーノースを生じるおそれがあるので厳守してください。
 - ②寒害などによる葉の落葉を本剤が助長することがあるので、樹勢の弱い木への散布や異常低温の予想される場合は散布はさけてください。なお、散布はなるべく温暖な日を選んで行い、散布液が夕方までには乾くようにしてください。
- ぶどうに使用する場合、次の事項に十分注意してください。
 - ①薬害を生じるおそれがあるので必ず炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
 - ②後期(果実肥大期以降)の散布は果房の汚れを生じるので、有袋栽培では袋がけ前の散布はさけてください。また、無袋栽培ではこの時期以降収穫まで使用しないでください。
- おうとう、いちじくに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、必ず炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
- もも、ネクタリンに使用する場合、収穫後から落葉までは2000倍で散布し、開花前には1000倍で散布してください。なお、収穫後の散布では薬害を生じるおそれがあるので、必ず炭酸カルシウム水和剤を加用してください。
- キウイフルーツに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、次の事項に十分注意してください。
 - ①発芽期以降は炭酸カルシウム水和剤を加用してください。果実に汚れを生じるおそれがあるので留意してください。
 - ②過度の連用をさけてください。
 - ③品種によっては薬害を生じることがあるので、事前に確認する等、注意して使用してください。
- りんごに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので必ず炭酸カルシウム水和剤を加用してください。また、本剤の散布により、サビ果が多くなるおそれがあるので落花直後から落花後30日頃までは使用しないでください。
- いんげんまめに使用する場合、幼苗期および高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- きゅうり、はくさい、キャベツおよびだいこんに対しては薬害を生じやすいので、次の事項に十分注意してください。
 - ①高温時は症状が強くなるため散布はさけてください。
 - ②はくさい、キャベツおよびだいこんに使用する場合は、薬害軽減のために炭酸カルシウム水和剤を加用してください。収穫間際には汚れを生じるので留意してください。
- カリフラワー、にんにくおよびくわいに使用する場合は薬害を生じるおそれがあるので、炭酸カルシウム水和剤を加用してください。また、くわいに使用する場合、高温時の散布は薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- ブロッコリー、カリフラワーに使用する場合、花蕾形成期以降の散布は花蕾に薬害を生じるおそれがあるので花蕾形成期までに散布してください。
- ばれいしょの種いも浸漬は無萌芽種いもを対象としてください。萌芽種いもには薬害を生じるので使用しないでください。
- ほうれんそうに使用する場合、葉の汚れを生じるので収穫間際の散布はさけてください。また、雨よけ栽培の場合も収穫までの期間を十分取ってください。
- ほうれんそうに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、次の事項に十分注意してください。
 - ①高温時は症状が強くなるため散布はさけてください。
 - ②連用により葉の周辺が黄化するおそれがあるので、過度の連用をさけてください。
 - ③品種によっては薬害を生じることがあるので、事前に確認する等、注意して使用してください。
- つめこに使用する場合、薬害を生じるおそれがあるので、次の事項に十分注意してください。
 - ①発芽期以降は必ず炭酸カルシウム水和剤を加用してください。果実に汚れを生じるおそれがあるので留意してください。
 - ②過度の連用をさけてください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 木酢液等は混ぜないでください。
- くわいに使用する場合、散布後7日間は落水、かけ流しをしないでください。
- 本剤の使用にあたっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分に確認してから使用してください。なお、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 散布の際は農業用マスクなどを着用してください。種いも浸漬の際は、不浸透性手袋などを着用してください。



●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載内容以外に使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届くところに置かないでください。 ●使用後の空袋は、ほ場等に放置せず、環境に影響のないよう適切に処理してください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

本資料は2024年3月現在の知見に基づき、作成されています。